

京都府漁海況情報

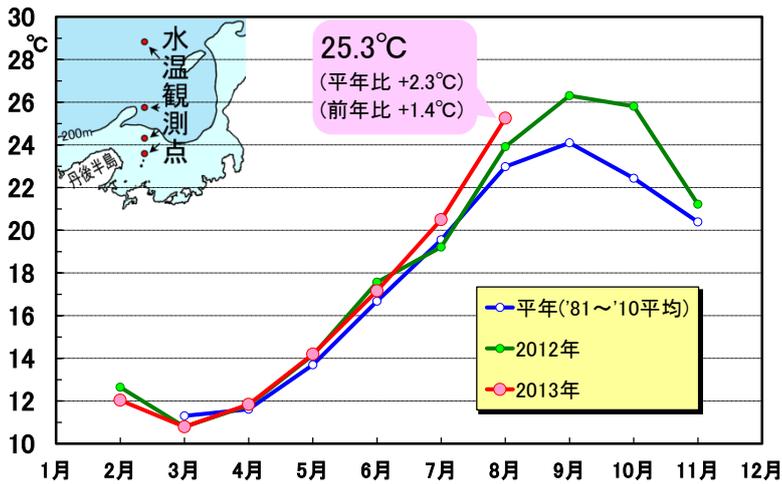
海の状況

京都府農林水産技術センター海洋センター 海洋調査部
<http://www.pref.kyoto.jp/kaiyo/>
 電話：0772-25-3078 FAX:0772-25-1532

【現況】

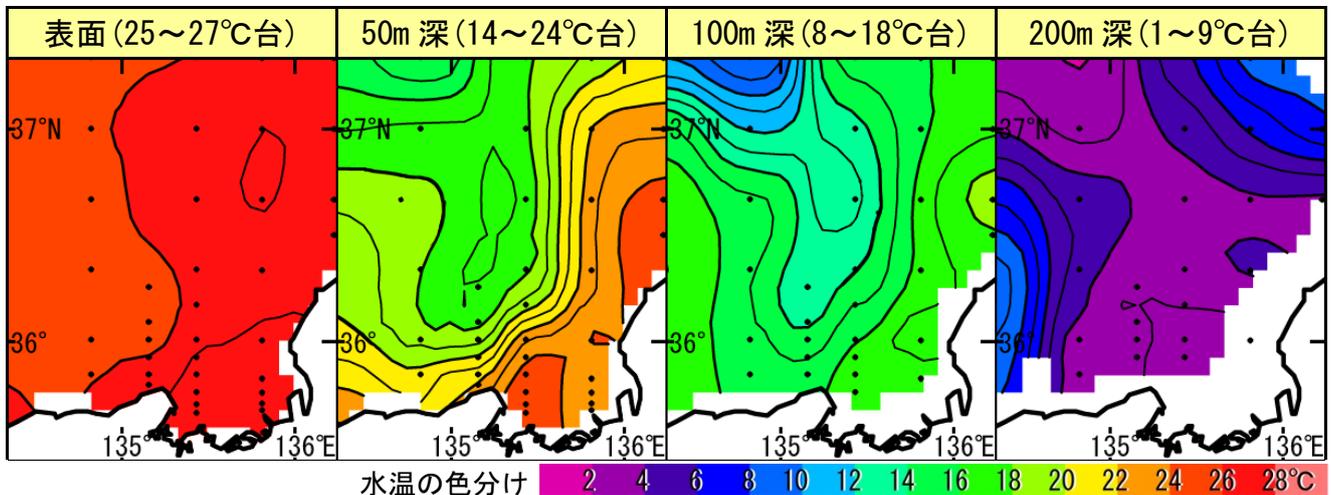
8月上旬における京都府周辺の表層水温は、前年および平年より高めで推移していました。

京都府沖の表層水温(0~50m 深平均)



京都府周辺の各層水温(2013年8月上旬)

資料元：(独)日本海区水産研究所



【今後の見込み】

資料元：気象庁, (独)日本海区水産研究所

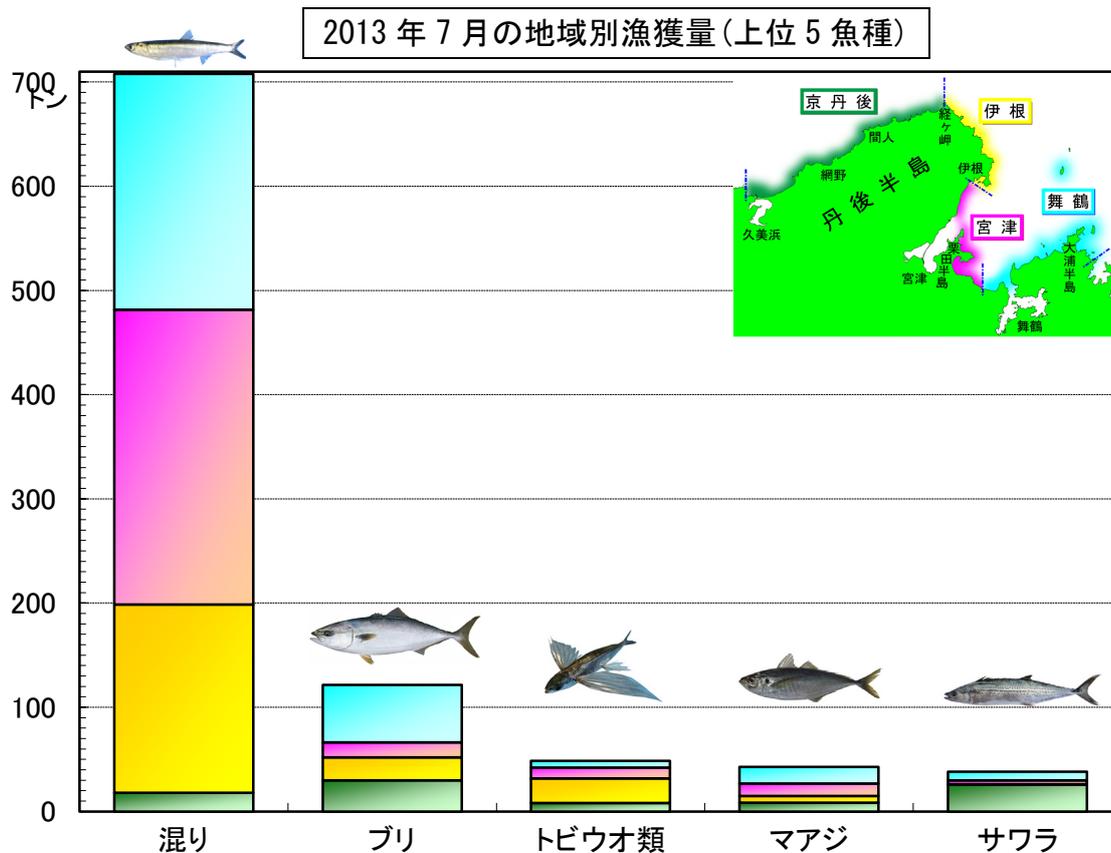
向こう1か月程度の予報	
京都府周辺の表層水温	「平年より高め」で推移する見込み
対馬暖流の勢力	「平年並み」で推移する見込み
沖合からの冷水域の張り出し*	「弱め」で推移する見込み

*冷水域の張り出しが強いと、対馬暖流域に生息するブリなどの浮魚類が沿岸に来遊しやすと考えられています

漁模様 ～2013年7月～

【定置網漁業】

全体の水揚量は、前年および平年を上回りました。



7月漁獲量(トン) 京都府漁業協同組合集計				
魚種	2013年	2012年(前年比)	平年(平年比)	備考
混り	707.9	324.1 (218%)	336.2 (211%)	<混り> マイワシ(体長 5～8cm 級主体)が約 7 割, カタクチイワシが 2 割強, 残りが小型のアジ類やサバ類, ウルメイワシと推定されました。
ブリ	121.5	19.5 (622%)	67.0 (181%)	<ブリ類> はまち銘柄(尾さ長 40cm 台主体)が約 8 割, つばす銘柄(尾さ長 30cm 以下主体)が約 2 割でした。
トビウオ類	48.6	112.9 (43%)	73.9 (66%)	<サワラ> さごし銘柄(尾さ長 50cm 台主体)が 9 割以上, より大きなさわら銘柄が若干量でした。
マアジ	42.7	155.6 (27%)	165.7 (26%)	<イカ類> ケンサキイカ(白いか)が 29.6 トン, スルメイカ(胴長 8～13cm 主体)が 0.6トンなどでした。
サワラ	38.3	23.2 (165%)	100.0 (38%)	
イカ類	30.2	35.6 (85%)	25.4 (119%)	
マルアジ(青あじ)	14.0	2.8 (491%)	20.0 (70%)	
カマス類	9.7	12.6 (77%)	8.7 (112%)	
サバ類	6.4	5.2 (122%)	28.9 (22%)	
ヒラマサ	5.6	2.6 (218%)	0.8 (677%)	
その他	30.9	43.1 (72%)	64.5 (48%)	
合計	1055.8	737.3 (143%)	891.0 (118%)	

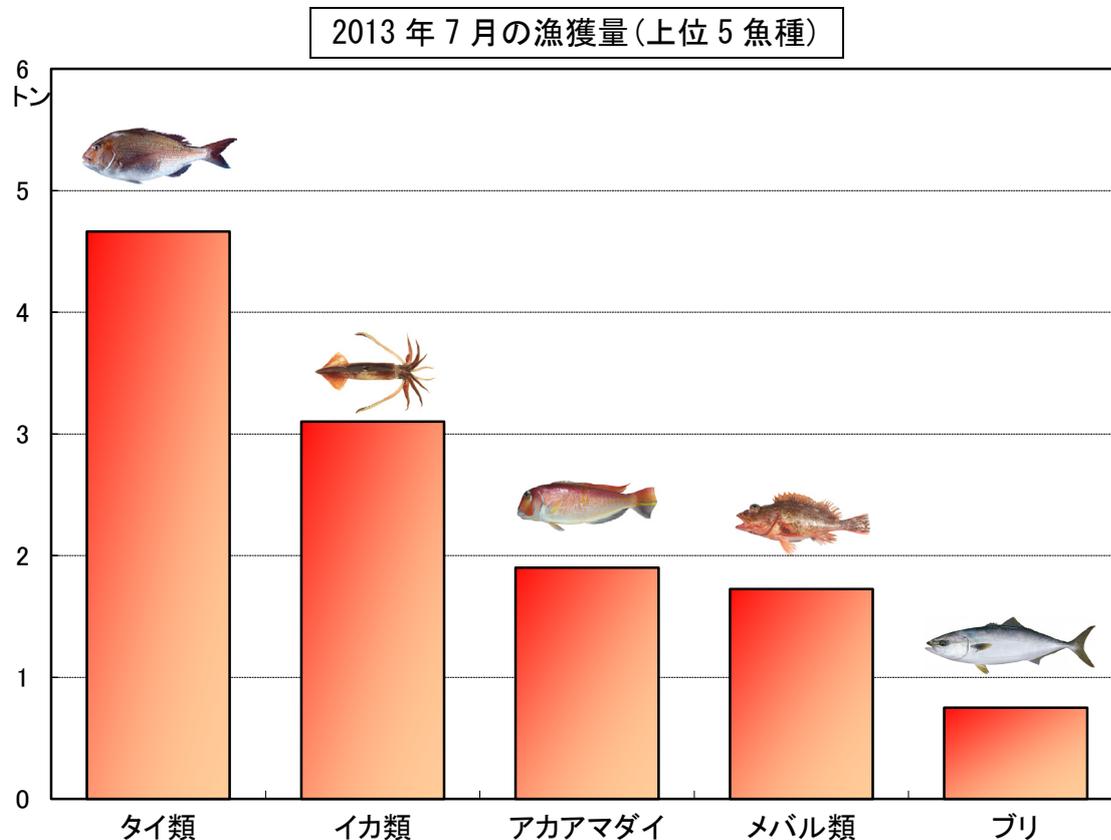
平年は過去 10 年平均

【底曳網漁業】

資源保護のため、6月1日から8月31日まで休漁です。

【釣り・はえなわ漁業】

全体の水揚量は、前年の9割強および平年の約8割でした。

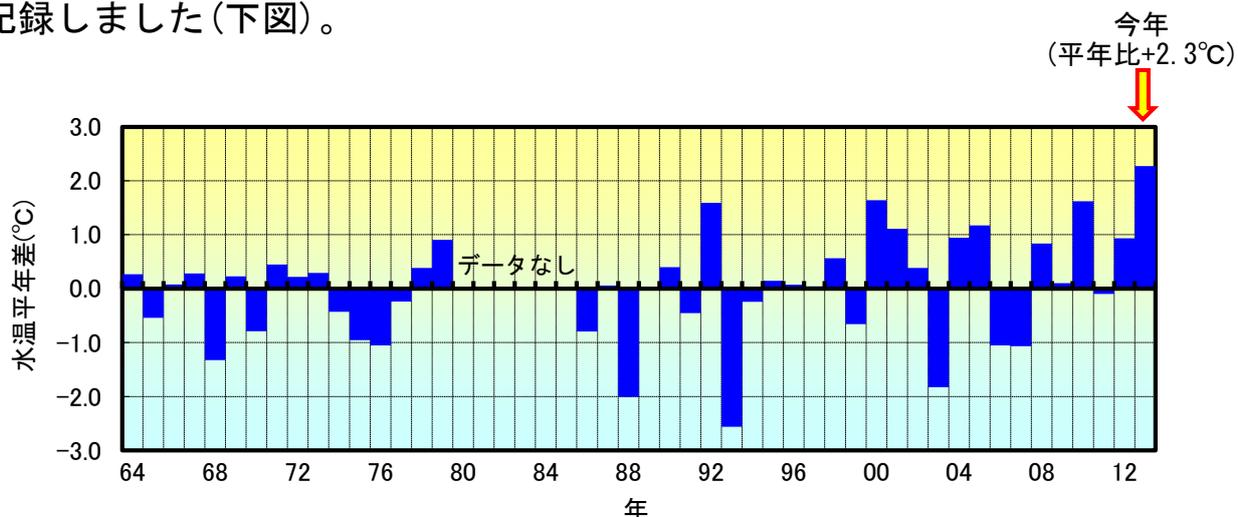


7月漁獲量(トン) 京都府漁業協同組合集計				
魚種	2013年	2012年(前年比)	平年(平年比)	備考
タイ類	4.7	3.6 (129%)	3.0 (153%)	<タイ類> マダイが約6割, キダイ(レンコダイ)が4割弱, クロダイとチダイが若干量でした。 <イカ類> ケンサキイカ(白いか)が3.0トン, スルメイカなどが若干量でした。 <ブリ> つばす銘柄が7割強, まるご銘柄とはまち銘柄が若干量でした。
イカ類	3.1	4.8 (65%)	6.2 (50%)	
アカアマダイ(ぐじ)	1.9	2.7 (71%)	1.9 (101%)	
メバル類(もいお)	1.7	2.6 (67%)	2.6 (66%)	
ブリ	0.8	0.2 (463%)	0.2 (346%)	
マアジ	0.7	1.2 (58%)	0.9 (75%)	
カレイ類	0.3	0.9 (31%)	0.7 (40%)	
スズキ	0.2	0.2 (129%)	0.2 (142%)	
ウマヅラハギ(長はぎ)	0.2	—	1.3 (18%)	
タチウオ	0.2	0.1 (134%)	0.5 (39%)	
その他	3.1	1.9 (168%)	3.8 (82%)	
合計	16.9	18.0 (94%)	21.3 (79%)	

平年は過去10年平均

【トピック ～今夏の高水温～】

1 ページ目でもお示したように、今夏の京都府周辺の表層水温は平年より高めで推移しています。特に、8月の水温は約50年間の観測で同月の最高を記録しました(下図)。



8月の水温平年差(京都府沖0~50m 深平均)の推移。

今のところ、漁況への大きな影響は確認されていませんが、一部の南方系魚類が例年より多く来遊している可能性があります。例えば、ヨコシマサワラは今年6~7月に平年比約68倍の2.4トンの水揚げがありました(京都府漁協集計)。また、一部の定置漁業者によると南方系魚類の幼魚の混獲が例年の夏より多いとのこと。今後の海況と漁況の推移が気になるところです。



京都府漁協に水揚げされたヨコシマサワラ(平成25年7月9日, 写真左), 定置網で混獲された南方系魚類の一例(写真右の上からキハツク, ゲンロクダイ, ヨコスジフエダイ)。